

基本問題小委員会資料

宮崎県立 延岡工業高等学校 教諭 岡田 篤

プロフィール

経歴

- ～2003年 ゼネコン勤務
- ～2006年 宮崎県にて常勤講師
- ～2011年 長崎県採用。教諭勤務
- ～2013年 佐賀県に人事交流
- ～2020年 長崎県にて教諭勤務
- ～ 現在 宮崎県採用。教諭勤務

校外での活動

全国高等学校土木教育研究協議会
幹事 (HP・SNS担当)

土木学会 教育企画・人材育成委員会
高校教育小委員会
委員 (HP・SNS担当)

西日本高等学校土木教育研究協議会 幹事

学生が就職先を選ぶ際に、どのような点が重視されるか。

企業選びは、求人票から

- 3年生は、過去の求人票から希望先を選定。1、2年生でも過去の求人票を閲覧可能。進路学習でも、見方を説明。

企業情報は、ネットや企業説明よりも先輩からの情報

- 企業説明会もあるが、先輩の実際の話が重要視。

最後に決めるのは、本人だが、保護者の意見を重要視

- 7月求人公開され、夏休みに3者面談・企業見学、9月16日から受験開始。

求人票の着目点は、休暇日数、給与、離職率

勤務先は、コロナ禍以降は、地元を重視

前提として、

- 高校生の場合、社会経験が乏しい。
→アルバイトも経験したことがない生徒が多い。
- コロナ禍以降、進学希望者が増加。建設業界を敬遠しているわけではない。
→進学先のほとんどは、建設系の学校希望。充実した高校生活を送れなかったので、進学先に希望を見出したいようだ。
- 建設業に就職し、離職した者は、建設業に再入職する者が多い。
→土木科を卒業し、他業種に就職し、その後離職した者も、建設業に就く者もいる
- 給与と休暇のバランスが必要。
→若手就業者にとっては、どちらも重要。それよりも、入社後の教育環境(自己肯定感の持てる環境づくり)。

学生(及び学校関係者の皆様)から見た魅力的な就職先候補となるために、建設業がどのような業界になっているべきか。

学生(及び学校関係者の皆様)から見た魅力的な就職先候補となるために、建設業がどのような業界になっているべきか。

- 資格重視の業界であることを知ってもらい、その価値を上昇させてほしい。
 - CCUSを活用するため、高校生にもアピールが必要ではないか。(リモート活用など)
- 地元建設業も社会生活の基盤を担っていることを生徒にもっと知ってほしい。
 - 建設業が地域を支えており、なくてはならない産業。安全、安心な生活を支えている。
- 就職先候補になるには、女性や他業種希望者。
 - 建設業の仕事が肉体労働という先入観を変えたい。建設ディレクターの求人で、採用の幅が変わっている。幅広い高校へのアピールも。
- 建設業の魅力は、地方にこそある。
 - 家庭環境の変化によって、地元に戻らなければならない場合は、CCUSを利用したUターン等の地元就職に有利。建設業以外は、それまでの企業就業経験を証明しづらい。